



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第215回演奏会

The New Symphony Orchestra—215th Concert

芸術文化振興基金助成事業



指揮: **高関 健**

TAKASEKI Ken, conductor

シェーンベルク 5つの管弦楽曲〈1949年改訂版〉

Arnold SCHOENBERG (1874-1951): Five Pieces for Orchestra, 1909 (revised in 1949), op. 16

マーラー 交響曲第5番嬰ハ短調

Gustav MAHLER (1860-1911): Symphony No. 5, in c-sharp minor, 1902

2011年10月30日(日) 2:00p.m.開演 すみだトリフォニーホール

JR総武線・錦糸町駅北口／地下鉄半蔵門線・錦糸町駅出口3—徒歩約5分 1:30p.m.開場

2:00pm, Sunday, October 30, 2011, at Sumida Triphony Hall (Kinshicho Station, JR North Exit or Hanzomon Subway Line Exit No. 3)

入場料 S席:¥3,000 A席:¥2,500 B席:¥1,500(全席指定)

88ペアチケット(お二人様で合計88歳以上のお客様は合計金額から1,000円を割引いたします。下記コンサートイメージのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ コンサートイメージ03(3235)3777 <http://www.concert.co.jp/>でもお申し込みいただけます。

チケットのお申し込み:チケットぴあ 0570(02)9999

トリフォニーホールチケットセンター 03(5608)1212(10:00~18:00)

CNプレイガイド:0570(08)9990(10:00~18:00) 0570で始まる電話番号は、一部携帯電話・PHS・IP電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しておりますので、ご希望の方は受付でお受け取りください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。

*託児サービスがございます(予約制)。詳細は裏面をご覧ください。

新響のホームページ<http://www.shinkyo.com/> Design: IMAO Keisuke

演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

2010～2011 年は「マーラー・イヤー」

今年ウィーンで活躍した大作曲家マーラー(1860-1911)の没後 100 年、昨年は生誕 150 年にあたります。マーラーの作品が演奏される頻度が増えたり、関連する映画や書籍が発表されるなど、国内外で盛り上がっています。新響は 1979 年から 10 年にわたってマーラー交響曲全曲シリーズに取り組み、最近では高関と第 9 番、第 6 番、第 7 番と演奏してきました。マーラー・イヤーの締めくくりとなる今回の演奏会では、最も人気の高い第 5 番を演奏します。

アルマへのラブレター

交響曲第 5 番が作曲された 1902 年、マーラーはウィーン宮廷歌劇場監督として地位も名誉も得て、私生活でもアルマと結婚し長女が誕生します。まさに人生の絶頂期に作られたこの曲は、それまでの第 2 番～第 4 番が声楽入りの作品なのに対し、純器楽によるより新しい表現へと発展させた、彼の成熟期の代表作となりました。5 楽章からなる大作ですが、中でも弦楽器とハープだけで演奏される第 4 楽章アダージェット(小さなアダージョの意)は世界でもっとも甘美なアダージェットの一つで、マーラーが 19 歳年下のアルマへの愛情を表現した曲と言われています。実際にアルマは交響曲第 5 番のスケッチからフルスコアを作成する仕事を手伝っていました。

大ヒットした CD『アダージェット・カラヤン』や映画『ヴェニスに死す』で有名ですが、日本では伊丹十三監督の『タンポポ』で使われていて聴き覚えのある方も多いでしょう。

ロマン主義から無調音楽へ

マーラーが活躍していた頃のウィーンはいわゆる世紀末ウィーンと呼ばれ、文化が熟し芸術の各分野で新たな飛躍を遂げました。アルマは才能と美貌に恵まれ、画家クリムトなどの芸術家を魅了したウィーン社交界の花でした。そのアルマと結婚してマーラーの交友関係も変わり、新しい芸術を目指す分離派と交流を持つようになります。音楽家ではアルマの作曲の師であるツェムリンスキーとその弟子のシェーンベルクがマーラーの家に出入りして音楽談義をするようになります。

シェーンベルクは、初期はマーラーと同様に後期ロマン派の作風でしたが、新しい方法論を模索し無調音楽へ、そしてさらに無調を理論化した十二音音楽を確立します。当時そのような前衛音楽は聴衆に受け入れられませんでした。マーラーは支援し擁護し続けました。「シェーンベルクの音楽はわからない。でも彼は若い、おそらく彼が正しいのだろう。」

シェーンベルクが無調へと向かった最初の管弦楽作品が「5 つの管弦楽曲」です。20 世紀以降の現代音楽の先駆的存在で、のちの作曲家に大きな影響を与えました。現代音楽というと難解で堅苦しいイメージがありますが、この作品はメロディがわかりやすく響きの新鮮な聴きやすい曲です。

どうぞお楽しみに！(H.O.)

今後の演奏会予定

<第 216 回演奏会>

2012 年 1 月 14 日(土) 19 時 東京オペラシティ

指揮 山下一史

曲目 リムスキー＝コルサコフ/スペイン奇想曲

ボロディン/交響曲第 2 番

ムソルグスキー/組曲「展覧会の絵」(ラヴェル編)

<第 217 回演奏会>

2012 年 4 月 30 日(月休) 14 時 東京オペラシティ

指揮 飯守泰次郎

<第 218 回演奏会>

2012 年 7 月 22 日(日) 14 時 東京オペラシティ

指揮 飯守泰次郎

<第 219 回演奏会>

2012 年 10 月 21 日(日) 14 時 東京芸術劇場

指揮 曾我大介

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は 1956 年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・故芥川也寸志の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10 年におよぶ日本の交響作品展(1976 年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第 4 番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(故山田一雄指揮、1979～90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(故石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。

見学・オーディション等のお問い合わせは倉田まで。

FAX: 03-3922-0342 または E-mail: shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後 6 時～9 時、労音十条会館(東十条駅徒歩 7 分・十条駅徒歩 10 分) 他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

イベント託児・マザーズ(0120-788-222、受付時間/土日祝除く 10:00～12:00、13:00～17:00)に 1 週間前までにお申込みください。託児料の一部としてお子様 1 人あたり 2000 円をご負担いただきます。